

第4回（仮称）滋賀県子ども・青少年総合計画策定協議会 開催概要

平成21年（2009年）11月2日（月）9：30～12：00

大津合同庁舎 7 - A会議室

委員の出欠

出席委員：安部委員、井深委員、小田委員、小林委員、鹿田委員、高岸委員、高橋委員、
中西委員、福永委員、山本委員、渡部委員 計11名

欠席委員：樫葉委員、葛口委員、中村委員、野田委員、船川委員、松元委員、森口委員
計 7名

会議の概要

2 議 題

- (1) (仮称) 滋賀県子ども・青少年総合計画策定協議会報告書（案）について
各委員からの意見（第3回策定協議会および文書照会分）に対する事務局の
考え方とそれを踏まえた、(仮称) 滋賀県子ども・青少年総合計画策定協議会
報告書（案）について、資料1および2に基づき、事務局から説明
- (2) 計画の名称について
資料3に基づき事務局から説明
- (3) 計画策定にかかる今後のスケジュールについて
資料4に基づき事務局から説明

委員からの意見等（まとめ）

1 （仮称）滋賀県子ども・青少年総合計画策定協議会報告書（案）について

【「第3章 基本目標と具体的施策の推進」について】

- ・ 保育所への入所勧奨の項目について、発達障害のある子どもについても、保育所入所に関する考慮について付け加えて欲しい。
- ・ 子育て短期支援事業（ショートステイ等）について、子育て支援の部分における記述（P37）と社会的養護の部分における記述（P52）が異なっているが、同じ事業であるの記述を統一した方がいい。
- ・ P40の「新米ママ」、「先輩ママ」という言葉について、男女がともに子育てに関わっていく必要があるという観点から別の表現を検討されたい。
- ・ 1の位まで書かれた数値があるが、目標として掲げる数値としては細かすぎるように思う。
- ・ 最近話題になっている大学生など若者の薬物使用について、思春期の健康対策の部分に記載する必要はないか。

【「第4章 計画の推進に向けて」について】

- ・ 現行計画にはなかった点検・評価の視点が今回は加えている。これは、「計画策定で終わったわけではない。PDCAサイクルの中で実際の取り組みについて点検・評価する」という“決意表明”のようなもの。委員も計画の進捗に関心を持って見ていかなければならない。
- ・ 県の役割について、地方分権が進む中で、市町とは異なる役割があるということをもう少し強調すべきではないか。「広域的な観点からの調整」という点をインパクトのある言葉で表現して欲しい。例えば、子ども・若者にマイナスの影響をもたらす地域の差を埋めるといった役割もあるのでは。
- ・ 学校等の役割について、保育所に「『生きる力』の教育・保育の推進が求められている」という認識に対しては疑問を感じる。
- ・ P68の「企業の役割」について、仕事と家庭生活の両立を図る上での職場環境の整備は、企業だけに求められるものではないので、「企業の役割」とするのがどうか検討されたい。
- ・ 市町分を積み上げた数値目標もあるが、これらについては、計画の実施状況を評価・点検する際に、個別の市町計画の進捗状況も含めて点検・評価するという理解でよいのか。

<事務局の回答>

- ・ 市町の目標事業量を積み上げた数値目標については、各市町計画の進捗状況を確認しながら評価・点検を行っていきたい。

- ・ P67の「それぞれが果たす役割」について、子ども・若者自身が持つ役割については記載する必要はないか。
- ・ 第4章は「計画の推進に向けて」果たす役割を記載しているのであるから、計画の本体に、子ども・若者が何かを達成するという内容があるわけではない。その点との整合から、この章において「子ども・若者の役割」を記載するか否かを検討すべき。
- ・ 子ども・若者がもともと持っている健やかに育ち、生きていく力を阻害する要因を軽減する、あるいは取り除くために何をなすべきかということで、策定協議会では議論してきたと理解している。「子ども・若者の望ましい姿」については多様な意見がある。策定協議会では、子ども・若者の役割を焦点化して議論していない。

【その他】

- ・計画策定後の計画の周知に力を入れて欲しい。
- ・計画の成否はアウトプットがどれだけできるかにかかっている。たくさんの施策や数値目標が書かれてあるが、これを実現していく体制や方策を具体的に考えておく必要がある。
- ・報告書の内容は細部に分かって書かれているが、もう少しマクロの視点から見た取りくみも必要。
- ・計画の実現のためには人とお金がいる。計画は書いてあるだけで、具体的には何も進んだことはないという声が市町にはある。
- ・数値目標をたくさん掲げているが、財政が厳しい中で、計画が十分に実行されていくか。いくつかの施策を重点的に取り上げるという方針が必要ではないか。
- ・計画全体のイメージが暗い。現状のマイナスをプラスにしていこうという計画だろうが、子ども・若者の計画なのだから、彼らをもっと頑張ろうと思える、前向きな思いも込める必要ではないか。

<事務局の回答>

- ・子育てや若者の自立をめぐる現状を踏まえ、課題解決のために必要と考えられる施策を記載しているので、計画に掲げたすべての数値目標の達成に向けて取り組んでいきたいと考えている。
- ・点検・評価の中で、進捗が遅れている事業については、その原因の把握や対応等の検討を行い、翌年度以降に重点的に推進するなど、個別年度の取り組みの中で重点化を図っていきたいと考えている。
- ・計画では、現在課題となっていることを中心にデータを掲載し、その対応策を具体的取り組みを記載している。

【県民政策コメントについて】

- ・計画原案について、12月に県民政策コメントを実施することになっているが、寄せられた意見をどのように反映していくのか。どの程度の修正を加えていくのか。例えば、制度上、県の責任において実施する施策と市町の裁量に任されている施策があり、前者については記述が具体的だが、後者についてはそうではないというように、記述に濃淡がある。制度の詳細を知らない人は、全体のバランスの悪さを感じるかもしれない。そういう点について多くの意見が来た場合、どのように反映するのか。

<事務局の回答>

- ・策定協議会から提出いただく報告書の内容に基づき、計画原案を作成するので、それを大幅に変更することは想定していない。ただ、どのような意見が出てくるか分からないので、報告書の骨格に影響するような意見が多く寄せられた場合には、策定協議会には別途相談をさせていただきたい。

2 計画の名称について

- ・「成長」という言葉を入れてはどうか。
- ・「淡海」、「近江」、「しが」のどれが適当か検討されたい。
- ・サブタイトルの「生まれる前から自立まで」という表現は、「ばらまきの意味」で捉えられるのではないか。
- ・正解というものはない。一人ひとりの感性や世代によっても考え方が違うので、大多数の人が賛同するタイトルにすればいい。